

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200354		
法人名	株式会社 はなみずき		
事業所名	グループホーム船穂はなみずき		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂3194-1		
自己評価作成日	令和3年11月29日	評価結果市町村受理日	倉敷市

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200354-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム船穂はなみずきは、倉敷市船穂町と真備町の境の山の上にある小さなグループホームです。リビングからは眼下に高梁川が見えます。倉敷市内から女性8人と男性1人の計9人の認知症の高齢者が入居され生活しています。入居者が安心して暮らせることを願い15人の職員と話し合い工夫しながら支援しています。何かの御縁で地球の中のこの場所に集まった入居者の方と犬と猫、職員共に、ここでの生活を楽しみながらずっと続きますよう願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームはいつ訪問しても、家庭的で温かい雰囲気に満ちている。入居してから仲良しになった3人組はお互いの部屋を行き来し、いつも一緒と聞く。今日は柔らかな陽光が差し込むリビングでおはじき遊びに興じている姿を見かけた。「家に居たら一人だけここは友達がいるから寂しくない」とAさんが教えてくれた。家族に縁が薄い人もそうでない人も、共に寄り添い家族のように暮らしている。人間だけではなく数匹の野良猫がなついて出入りしベランダにネコハウスが置いてある。まるでホームの一員のような。利用者の個性も十人十色。それぞれの個性を大切にその人の希望する生活スタイルを出来る限り優先させて快適に暮らせるように支援している。数人の職員がすぐ近くの団地から通っているという縁もあり、地域との交流やご近所との付き合いも深く、地域の高齢者からも頼りされ良き相談相手となっているようだ。これからも地域福祉の拠点としての役割に期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの生活が続けられその人らしく穏やかに地域で暮らせるように支援している	3つの支援を理念に掲げているが、その中でも「生きがいを持って生活」をしている様子が利用者の笑顔や言葉、そして記録等から感じられる。利用者にとっては「終の棲家」であり、職員、猫たちと一緒に家族のように暮らしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年より新型コロナウイルス感染症対策で近所の方の訪問が少ないが、玄関前に畑でできた野菜や花を届けてくれる	コロナ禍の為、以前のように気軽に近所の人立ち寄ってくれる機会は減ったが、今まで培ってきた地域との交流は途絶えることなく、ご近所付き合いや心の交流は続いている。コロナワクチン接種で困っていた地域の高齢者の為に一役買った事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	船穂町のふれあいサロン、地域の高齢者との交流会も開催が少ないです。 新型コロナウイルスワクチンの予防接種では近所の高齢者で自力で予約が困難な方への支援を行った		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では新型コロナウイルス感染症対策で運営推進会議の中止が多く、書面でホームの様子を報告し意見を伺うことが多い	年度当初はずっと書面での報告であったが、この10月からは参集での運営推進会議が開催出来ている。高齢者支援センター、民生児童委員、家族代表等が参加し、活動報告をしたり意見交換をして有意義な会を催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことは指導監査課に尋ねたり、玉島福祉事務所とは連絡をとっている	運営推進会議に高齢者支援センターの職員の参加があるので、ホームの実情はよく理解してもらっており何かあればその都度相談している。倉敷市主催の新型コロナウイルス感染症対策研修会に参加する等、連携を取り合うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化については年4回の所内研修等を通して職員とともに取り組んでいる。現在、玄関の施錠は行っていないが、安全面から夜間の施錠は行っている	比較的元気で自分で歩ける人が多いが、身体拘束を必要とする人や場面もなく、また、その人の自主性を大切に、日常的にも一切身体拘束はしていない。職員も研修等を通してよく理解しており、言葉の抑止にも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待については具体例を交えながら年1回程度の所内研修を行なっています。また職員のストレスコントロールについても話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護をテーマに所内研修を行ないます。また2人の入居者が成年後見制度を利用しており、後見人さんのお話を聞く機会が多いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時はホームの内容やケアについて、重要事項の説明を行っています。不安事項、疑問点はお尋ねして、あれば説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近は少ないが面会時、家族等の意見を伺っている。日常生活の中で本人の発言にも傾聴している。ご家族には毎月はなみずき通信をその人その人に合わせお送りしている	受診の送迎時や面会の時に家族と積極的に話をして意見や要望を聞くようにしており、利用者は話ができる人が多いので、直接本人に聞くようにしている。遠方にいる家族もいるので毎月発行している通信で生活の様子や近況報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを始め、気のついたことはその都度話し合っ提案や意見は聞くようにし改善すべきところは直している	毎月の職員会議で様々な課題についてよく話し合っている。ホーム開設当初から勤務している職員も数名おり、勤続年数が長い職員が多いので、気心の知れた仲であり、代表一家ともコミュニケーションがよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準も明確にしており、職員のやりがい等の気持ちを大切に、長く働けるように勤めている。職員15人中6人が7年以上の勤務、3人がもうすぐ7年になる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会を持ち、資質の向上ができるようにしている。社外研修は職員交代で参加している。資格取得についても積極的に支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近少ないが船穂町内の介護保険事業所交流会に参加し質の向上の取り組みをしている。また地域の施設の運営推進会議に参加し、意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を決め、信頼関係を築いている。不安に思うことは担当職員から他職員へ共有し、取り除けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少なくするように努めている。特に状況に変化があった場合はいつも以上に密に連絡をとっている。またLINEを利用しホームの様子等の写真を送っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。個別の支援や必要な対応も考えている。買物に外出したい人とは定期的に外出している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い一緒に生活する者として助け合うこともある。高齢者の知識に職員が教えられる事もある。入居者と職員の年齢差が縮まっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力がある時はそうしている。当ホームは家族と縁の薄い人もいるが寂しさを感じずに生活してもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店へ買物支援をしている。ご家族の面会では入居者が喜ばれる	このコロナ禍にあっては以前のような面会は難しいが息子夫婦の面会を心待ちにしている人や姉妹に電話して連絡を取り合っている人達もいる。これまでの馴染みの関係を途切れさせない様に出来る限りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間づくりや気の合う人と話ができるようにしている。男性入居者も他の女性利用者とゲームを楽しんでいる。抗精神病薬を必要なくなった方もいる。一緒に歌番組を視聴したり暖かい季節は外気浴を犬とともに楽しんでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近は新型コロナウイルス感染症対策で機会が少なくなった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその人の人生歴も考慮し、希望、意向を把握できるように対応している	自分の居室でゆっくり生活したい、買い物に行きたい、好きな物を食べたい等、出来る限り本人の希望や意向を取り入れ、楽しく生活してもらえるように支援しており、買い物に同行して自分の好きな衣服やおやつを選んでもらったり、自分のペースで過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が歩んできた人生や得意な事を日常の会話の中から把握に努めている。カラオケ、読書、ドライブ等支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活や心身の状態からその人らしい過ごし方をさせていただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の話を聞きその人らしい暮らし、必要な介護等の計画をスタッフで検討し作成している	「ケアプラン立ち上げシート」に本人の意向や状態等を記録し、ニーズ(課題)を掘り起こし職員間で話し合いながら、本人・家族の意向に沿うように計画作成担当者がプランを作成している。生きがいを持って暮らすことが出来るようなプラン作りを心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護記録等職員間で共有し、実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、散髪、パーマなど希望の入居者に同行援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策のため地域資源の活用機会が少なかった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診し適切な医療や助言を受けている。発熱時は医師から様子を尋ねられる。かかりつけ医で対応ができない時は家族希望の病院を紹介してもらっている	希望するかかりつけ医に家族が受診に連れて行く人もいるが、殆どの人は職員が受診同行している。その道中が色々話が出来るとも楽しいとBさんが教えてくれた。看護師資格のある職員に薬の相談をしたり、軽微なケガ等の対応方法をアドバイスしてもらえるので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な介護の中での気づきを看護職員に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。入居者も看護職員を信頼し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密にしたり関係づくりを行っている。高齢者が多く病院との関係は必要で急変のサイン等を見極める研修会に参加しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去にも経験したが家族・職員とも相談しながら出来る限りの支援をしていきたいと取り組んでいる。家族の協力が大切である	過去には2例ほど、看取りをした事はあるが、基本的にはホームでの看取りはしていない。重度化や医療が必要となったり、食事が摂れなくなった場合には病院に入院するケースが殆どである。家族との縁が薄い人のお葬式をお世話した事も数々あり、最後まで出来る限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者が多いので、いつでも対応できるように日常から知識や定期的な訓練をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、年2回昼と夜を想定した避難訓練を実施している。立地条件より水害は想定しておらず、地震等で被災した場合は真備町の二万小学校に避難所に行くようにしている	定期的に避難訓練・防災訓練を実施している事が記録からも確認出来る。水消火器を使用したの消火訓練や非常階段を利用して2階から避難する等、利用者と一緒にやっているが、日中に参加出来ない夜勤の職員には個別に連絡をしたり研修をしている。	ホームの行事とタイアップして避難訓練をしているのはとても良いと思う。コロナ禍が収束したら地域の人参加や消防署員の立ち合い等も検討してみたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強をしたり利用者 を傷つけない言葉かけをするようにしている	その人の望む生活のあり方や自由を尊重したり、 プライバシーにも配慮している。また、更衣や排泄 の失敗時の介助は人前ではない、言葉遣いに 気をつける等、羞恥心やプライドを傷つけないよう に気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の思いや、どうしたいのか尋ね安全面 を考え自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを安心して過ごせるよう 見守り声掛けもしながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	散髪やパーマ、ヘアカラーなど本人の希望 されるように支援している。 また洋服や下着などを買いに同行すること もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	その人に合わせ食べやすくしたり介助の必 要な人にはさり気なく側についたり出来る人 には後片付けをしてもらったりしている	毎食職員が手作りし、近所の人や職員が差し入 れた旬の野菜が食卓を彩る。「職員が採ってきた つくしの袴取りを皆でして夕食に食べたら春の味 がした」という記録もあった。全介助は1名で、他 の人は自力摂取出来る。同じ食卓で和気藹々と 楽しい食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援している。食 事量と水分量の記録を残す時もある。体重 の増減のチェックも行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアや、義歯の手入れなど利 用者の力に応じ保清に気をつけ声掛け見守 りを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立していない人には排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけトイレ誘導している。ホワイトボードにトイレ誘導した時間を記入している	排泄が自立した人も多いので布パンツで過ごす人や自分でトイレに行く人が数人。2階にはトイレが3つ並んでおり女性用2、男性用1とそこを使用する人も決まっていると聞く。便器の傍に足置き台を置いて排泄しやすい工夫もしてあった。また、夜間トイレに行くのが怖いという人の為に、2階廊下の照明を増やした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ食事量運動等予防に取り組んでいる。医師に相談し下剤の服用をやめた入居者もあります。便秘3日目には飲食物の工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に問題がなければ、午後のゆっくりした時間を入浴タイムとし楽しんでもらっている。ただ拒否の人もおられ年齢を考慮し対応している。その人の希望する方法で入浴してもらっている	週2～3回を基本とし、シャワー浴、二人介助の人もいるが、殆どの人が湯船に入って職員とコミュニケーションを取りながら入浴を楽しんでいる。入浴拒否があっても週に1回程度は入浴出来ており清潔保持に気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じて日中は自由に過ごしている。夜は眠れない日もあり話し相手やお茶を飲んだり室温調整等眠れるよう支援している。6人の入居者がテレビを持ち込まれ21時頃まで視聴されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬はケースに入れ管理している。症状の変化等については医師看護師に相談、確認に勤めている。休薬の時はスタッフ全員に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性趣味等に合わせ買い物、ドライブ、散歩、図書館と喜んで過ごせるよう支援している。新型コロナウイルス感染症対策で休止しているがおやつバイキングもおこなっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける入居者がほとんどで、散歩やドライブ等に出掛ける。ホーム近くの愛宕山公園やワイナリーは四季おりおりの景色が楽しめるために頻繁に出掛けている	春は桜、秋は紅葉と四季折々の景観を楽しめる場所が近くにあるので、気分転換にお天気の良い日はよく出かけている。コロナ禍で外出出来ない時は、おはじきやお手玉等昔ながらの遊びを楽しんだり、ベランダで日光浴や外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、欲しいもの必要なものはいっしょに買物に行く。立替えをしてほしいものを購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由につかえるように支援しているがほとんどの人はしない。携帯を持ちご家族と頻繁に会話される人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングルームは狭いですが日当たりが良く、四季折々の景色を感じ居心地良く過ごす事が出来る。工作の得意なスタッフと壁飾りを作ったり折り紙や富士山の写真を貼って眺めている	小高い丘の上にあるホームのリビングからの眺望は素晴らしく、正月の初日の出も拝める。数匹の野良猫の為のネコハウスがベランダに置かれ、利用者達の心の癒しになっている。今日も仲良し三人組がおはじき遊びに興じ、楽しそうな歓声が上がっていた。また、2階の談話室は利用者達の団欒の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの中ではお好みの場所で話し相手と仲良く過ごせるようにしている。ホールで一人で過ごしたい人もいる。2階の談話室を気に入り、そこでおしゃべりや読書をされる人もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは備え付けですがテレビ・ラジカセ・椅子・ぬいぐるみ等お気に入りのものを持ち込みその人らしく過ごせるようにしている。片付けの苦手な人に強要しない	各居室は日当たりの良い南側が多く、お位牌や家族の写真を置いてある部屋もあれば、一日自室で自由に過ごす人もいて室内からテレビの音も聞こえてきた。その人の生活スタイルを尊重し、家庭にしているような空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は1・2階ですが元気な人は階段を昇り降りしたり自立した生活を送ってもらっている。エレベーターを利用している人もいる		